

8.7 自然との触れ合い活動の場

8.7.1 調査事項

調査事項は、表 8.7-1 に示すとおりである。

表 8.7-1 調査事項

区 分	調査事項
予測した事項	・自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度 ・自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度 ・自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度
予測条件の状況	・施設配置計画 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行い、緑化された空間を整備する。 ・コンコースを利用して南北方向及び東西方向への移動を可能とする歩行者動線を整備することにより、施設利用者、地域住民等が活用できる回遊性が高く、安全で快適な歩行者ネットワークを創出する。

8.7.2 調査地域

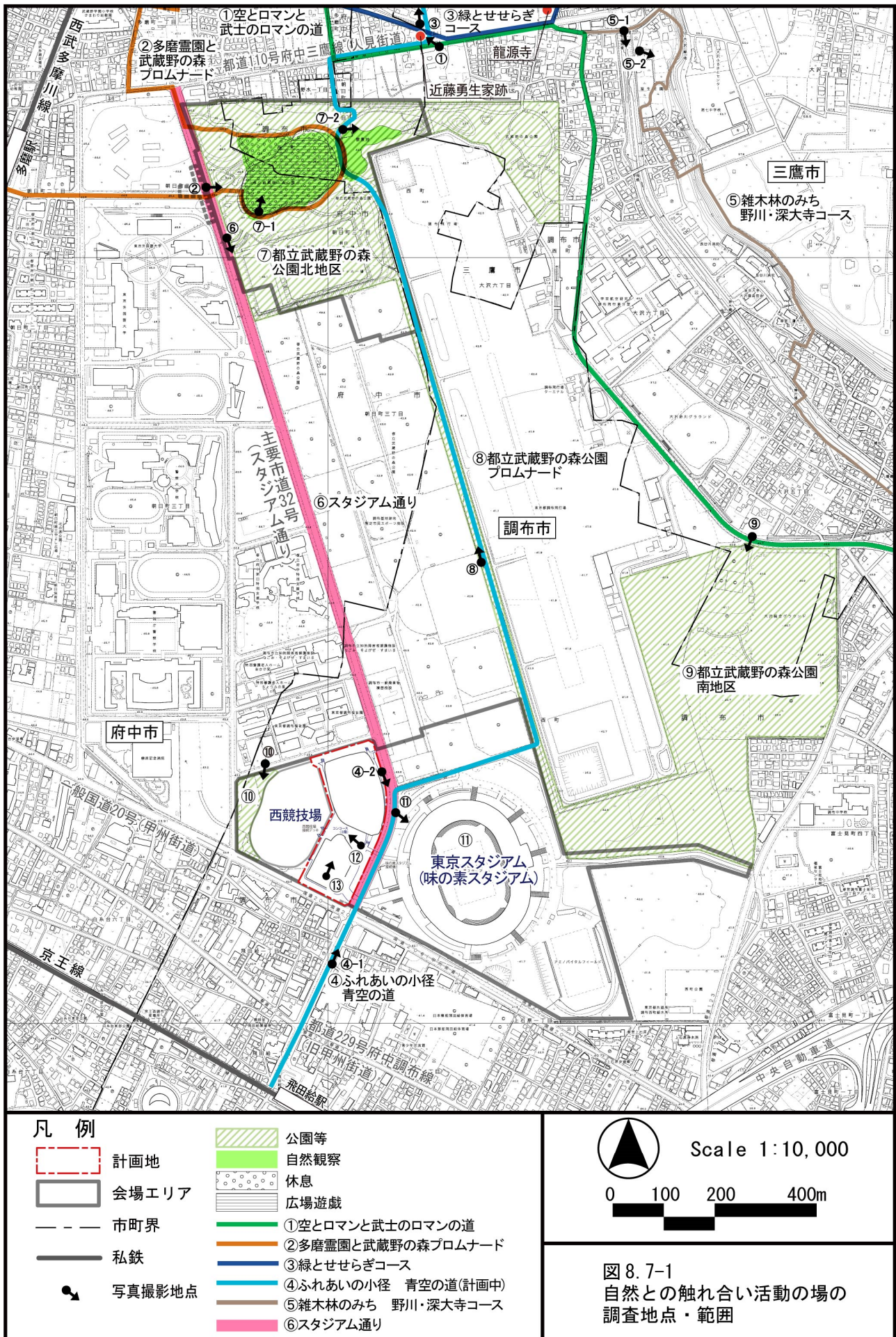
調査地域は、計画地及びその周辺とした。

8.7.3 調査手法

調査手法は、表 8.7-2 に示すとおりである。

表 8.7-2 調査手法

調査事項		自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度 自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度
調査時点		東京2020大会の開催後(2021年度)とした。
調査期間	予測した事項	2021年の適宜とした。
	予測条件の状況	2021年の適宜とした。
	ミティゲーションの実施状況	2021年の適宜とした。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺(図8.7-1)とした。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。
調査手法	予測した事項	既存資料及び現地調査により、自然との触れ合い活動の状況の整理による方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。



8.7.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項

ア. 自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度

計画地周辺の自然との触れ合い活動の場等の名称及び位置は、表 8.7-3、図 8.7-1 に、状況は、写真 8.7-3(1)、(2)に示すとおりである。計画地周辺では、生活道路や武蔵野の森公園、みどりの広場での散歩やジョギング・ランニングのほか、スタジアム通りに設置された休憩所や武蔵野の森公園、みどりの広場での休息等の自然との触れ合い活動が行われており、これらの自然との触れ合い活動の場を直接改変することはなかった。

計画地内には、写真 8.7-1 に示すとおり、メインアリーナとサブアリーナをつなぐコンコース（3階）上に緑地を整備し、シラカシ等の植栽を行った。また、写真 8.7-2 に示すとおり、サブアリーナ屋上には、ノシバ、ヘデラ・カナリエンシス、ヘデラヘリックス、フィリフェラオレア、アベリアを用いた屋上緑化を行った。



写真 8.7-1 コンコース上の緑化



写真 8.7-2 サブアリーナの屋上緑化

表 8.7-3 自然との触れ合い活動の場の名称及び位置

区分	番号	名称	位置	目的等
遊歩道、 道路	①	空のロマンと 武士のロマンの道	調布駅→(バス)→野川公園→ 近藤勇生家跡撥雲館道場→龍 源寺(近藤勇の墓)→(バス) →調布駅(約8.2km)	大空と緑の木々にあふれ、 明るくのびやかな散歩コー ス。野川公園にはわんぱく の森、ゲームの森、ピクニッ クの広場があり、また、湧水 や川遊びが楽しめる。
	②	多磨霊園と 武蔵野の森プロムナード	多磨駅→都立武蔵野公園→都 立野川公園→都立武蔵野公園 →多磨霊園→紅葉丘文化セン ター→多磨駅(所要時間約3時 間20分、約7.8km)	都立公園と多磨霊園を巡る コース。“武蔵野の森”の自 然が満喫できる。
	③	緑とせせらぎのコース	東小金井駅→栗山公園→小金 井神社→都立武蔵野公園→野 川→都立野川公園→東小金井 駅(所要時間約80分、約6.5km)	小金井の南側、野川流域に 広がる都立武蔵野公園と都 立野川公園を巡るコース。
	④	ふれあいの ^{こみち} 小径 青空の道(計画中)	野川公園～武蔵野の森公園～ 東京都調布飛行場～東京スタ ジアム～飛田給駅～多摩川(候 補ルート)	公園・緑地などをつなぐ緑 道や散策路を「ふれあいの 小径」と名づけ、自然や文化 や人とふれあうことができ る環境づくりを目指す。
	⑤	雑木林のみち 野川・深大寺コース	野川公園～野川～大沢の里～ 国立天文台～深大寺植物公園 ～深大寺自然公園(約5.2km)	野川沿いの見どころと名利 深大寺を訪ねるコース。
	⑥	スタジアム通り	調布市西町、府中市朝日町(約 1.7km)	
公園、 広場	⑦	都立武蔵野の森公園 北地区	府中市朝日町、調布市西町、 三鷹市大沢(約385,000m ²)	調布基地跡地利用計画を基 に整備中の公園。修景池の 水は災害時に生活用水とし て活用される。プロムナード にはベンチが整備されてお り、調布飛行場が見渡せる。
	⑧	都立武蔵野の森公園 プロムナード		
	⑨	都立武蔵野の森公園 南地区		
	⑩	みどりの広場	調布市西町(約8,000m ²)	西競技場に隣接する広場。 外来種だけを取り除き、在 来種の植物のみを残す方法 で植栽の管理を行っている。
施設	⑪	東京スタジアム	調布市西町(約177,000m ²)	多目的スタジアム。設立当 初は主に球技場として使用 されていたが、現在は陸上 競技場としても利用されて いる。



①調布めぐり(空のロマンと武士のロマンの道)



②府中ウォーキングマップ
(多磨霊園と武蔵野の森プロムナード)



③小金井市湧水と遊歩道コース
(緑とせせらぎのコース)



④-1 ふれあいの小径 青空の道(計画中)



④-2 ふれあいの小径 青空の道(計画中)



⑤-1 雑木林のみち 野川・深大寺コース



⑤-2 雑木林のみち 野川・深大寺コース



⑥スタジアム通り

写真 8.7-3(1) 施設の状況(2021年9月20日時点)



⑦-1 都立武蔵野の森公園 北地区



⑦-2 都立武蔵野の森公園 北地区



⑧都立武蔵野の森公園 プロムナード



⑨都立武蔵野の森公園 南地区



⑩みどりの広場



⑪東京スタジアム

写真 8. 7-3 (2) 施設の状況 (2021 年 9 月 20 日時点)



⑫コンコース上の緑化



⑬サブアリーナの屋上緑化

写真 8. 7-3 (3) 施設の状況 (2021 年 1 月 19 日時点)

イ. 自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度

サブアリーナ屋上に整備した屋上緑化には、写真 8.7-4 に示すとおり、訪れる人々のために案内看板を設置し、自然との触れ合い活動の促進を図った。



写真 8.7-4 サブアリーナの屋上緑化案内看板

計画地周辺では、生活道路や武蔵野の森公園、みどりの広場で散歩やジョギング・ランニングの他、生活道路に設置された休憩所や武蔵野の森公園での休息等の自然との触れ合い活動が行われていた。これらの自然との触れ合い活動の場を直接改変することはなかった。

事業の実施により、図 4.2-7 (p.19 参照) に示すとおり、コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行っており、この空間は新たな自然との触れ合い活動として活用され、自然との触れ合い活動が促進されたと考える。

ウ. 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度

計画地周辺では、生活道路や武蔵野の森公園、みどりの広場での散歩やジョギング・ランニングのほか、スタジアム通りに設置された休憩所や武蔵野の森公園、みどりの広場での休息等の自然との触れ合い活動が行われていた。鉄道路線の各駅からこれらの自然との触れ合い活動の場までのアクセスの所要時間は、表 8.7-4 に示すとおりであり、所要時間は事業の実施により変化することはない。

計画地内にはペデストリアンデッキにつながるコンコースを整備することにより、東側に隣接する東京スタジアム、西側に隣接する西競技場との連絡が容易になるとともに、コンコース上にシラカシ等の高木を植栽することにより、利用経路が充実した。

表 8.7-4 自然との触れ合い活動の場までの利用経路の状況

区分	番号	施設名	駅名	標準所要時間
遊歩道、道路	①	空のロマンと武士のロマンの道	調布駅	バス約 10 分
	②	多磨霊園と武蔵野の森プロムナード	多磨駅	0 分
	③	緑とせせらぎのコース	多磨駅	約 7 分
	④	ふれあいの小径 青空の道（計画中）	飛田給駅	0 分
	⑤	雑木林のみち 野川・深大寺コース	多磨駅	約 11 分
	⑥	スタジアム通り	飛田給駅 多磨駅	約 6 分 約 5 分
公園、広場	⑦	武蔵野の森公園 北地区	多磨駅	約 6 分
	⑧	武蔵野の森公園 プロムナード	飛田給駅	約 13 分
	⑨	武蔵野の森公園 南地区	飛田給駅	約 17 分
	⑩	みどりの広場	飛田給駅	約 7 分
施設	⑪	東京スタジアム	飛田給駅	約 5 分

2) 予測条件の状況

ア. 施設配置計画

施設配置計画は、「4. 武蔵野の森総合スポーツプラザの計画の目的及び内容 4.2 内容

4.2.3 事業の基本計画 (1)配置計画」(p.8 参照)に示したとおりである。

イ. 緑化計画

緑化計画は、「4. 武蔵野の森総合スポーツプラザの計画の目的及び内容 4.2 内容 4.2.3

事業の基本計画 (7)緑化計画」(p.18 参照)に示したとおりである。

3) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.7-5 に示すとおりである。なお、自然との触れ合い活動の場に関する問合せはなかった。

表 8.7-5 ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション 実施状況	・コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行い、緑化された空間を整備する。 コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行い、緑化された空間を整備した。   サブアリーナの屋上緑化とコンコース上の植栽 サブアリーナの屋上緑化
ミティゲーション 実施状況	・コンコースを利用して南北方向及び東西方向への移動を可能とする歩行者動線を整備することにより、施設利用者、地域住民等が活用できる回遊性が高く、安全で快適な歩行者ネットワークを創出する。 コンコースを利用した歩行者動線を整備し、施設利用者、地域住民等が活用できる回遊性が高く、安全で快適な歩行者ネットワーク (p.16 参照) を創出した。  歩行者動線となるコンコース

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度

事業の実施により、周辺の自然との触れ合い活動の場の直接改変は生じなかった。また、現況調査時の計画地は未利用地であり、一部駐車場として暫定利用されていたため、計画地内には自然との触れ合い活動の場は存在しなかったが、事業の実施により、コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行い、この緑化された空間は新たな自然との触れ合い活動の場として活用されている。

以上のことから、予測結果と同様に、新たな自然との触れ合い活動の場として、周辺の自然との触れ合い活動の場とともに利用されていると考える。

イ. 自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度

計画地周辺では、生活道路や武蔵野の森公園、みどりの広場で散歩やジョギング・ランニングの他、生活道路に設置された休憩所や武蔵野の森公園での休息等の自然との触れ合い活動が行われていた。これらの自然との触れ合い活動の場を直接改変することはなかった。

サブアリーナ屋上に整備した屋上緑化には、訪れる人々のために案内看板を設置し、自然との触れ合い活動の促進を図った。

事業の実施により、コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行っており、この空間は新たな自然との触れ合い活動として活用されるとともに、隣接する東京スタジアム（味の素スタジアム）や西競技場との間に新たなネットワークが創出されたことにより、利用者の利便性が向上した。

以上のことから、予測結果と同様に、周辺の自然との触れ合い活動も含めた利用者の利便性が向上したと考える。

ウ. 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度

計画地周辺では、生活道路や武蔵野の森公園、みどりの広場での散歩やジョギング・ランニングのほか、スタジアム通りに設置された休憩所や武蔵野の森公園、みどりの広場での休息等の自然との触れ合い活動が行われているが、これらの自然との触れ合い活動の場までのアクセスの所要時間は事業の実施により変化することはなかった。

計画地内にはペDESTリアンデッキにつながるコンコースを整備することにより、東側に隣接する東京スタジアム、西側に隣接する西競技場との連絡が容易になるとともに、コンコース上にシラカシ等の高木を植栽することにより、利用経路が充実した。

以上のことから、予測結果と同様に、歩行者動線と車両動線とを分離した安全で快適な歩行者ネットワークが構築されたと考える。